

も母親になれるが、女親が母親になるためには、我が手で育ててはじめて親となりうる、と同時に核家族化した現在父親も育児に参加し、母親だけに押しつけてはいけないといっています。幼子を持つ親たちは今が一番大切な時期だということを自覚し、惜しみない愛を与え、しつけを我が手です。

子どもが少しばかり字が書け、読めたから、おとのまねが出来たからと目に見えた事のみにおぼれていなか、無理やりおとの望みをおしつけ、型にはめこもうとしているなど、親にとって都合のよい子にしようとしているか反省してみる必要があると思います。

時には愛の鞭を

渡辺章子さん
岩本(55歳)

テレビを見れば、校内暴力、青少年非行と暗いニュースばかり、何か不安な気持になります。

私は、これは子ども達のストレス解消の排泄口としての行動だと思います。帰宅しても家族もおらず、忙しい母親の後姿を見、話し相手にも

なってもらえずテレビで夜更かし、朝寝坊、このような悪循環が非行仲間への誘引ともなります。

子どもは、外でよく遊び、何か目的をもち打ちこんでいれば悪に目を向ける余裕もなく強い意志も育ちましょう。他人に迷惑をかけず、自分の行動は責任をもち、ものの善惡の判断ができるよう家庭でもしつけるべきです。子どもは、親を見て育ちます。まず親の姿勢を反省し、子どもを信じることも大切です。

身体は発達しても精神のともなわない現代っ子、時には愛の鞭も必要です。将来を背負う子ども達を過保護、過放任にならず大事に育てたいものです。

今こそ連携が必要

鈴木寿々夫さん(52歳)
青少年補導員 駿河台3丁目



青少年健全育成総決起大会の街頭パレード

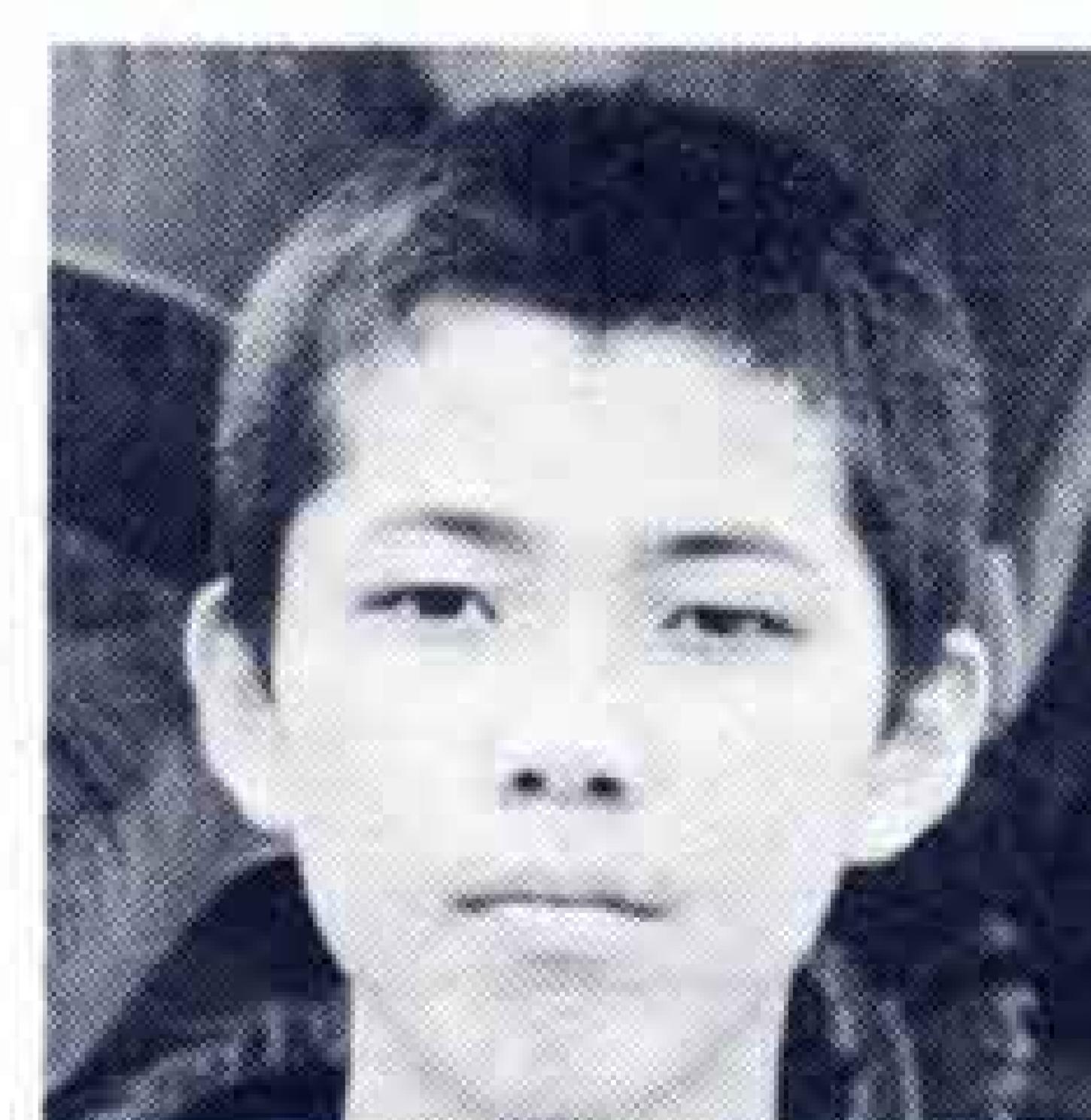
10年前から、市の青少年補導員として、青少年補導にあたっています。

現在、マスコミ等で青少年非行が取り沙汰されていますが、悪いことをするのは、ほんの一部分の子どもたちです。悪い悪いというばかりではなく、良い子どもたちも多勢いるので、その子どもたちも取り上げるべきではないでしょうか。

最近では、人と人との結びつきが薄れ、隣り近所ですら言葉を交わすことが少くなっているのが現状です。

青少年非行の問題は、一部の人たちだけでなく、みんなが一人ひとりのこととして受け止め、地域・学校・家庭が連携して取り組まなければ効果があがらないと思います。

沼川がもっときれいになつたらいいナ…



宮川直久君(鈴川2丁目)
元吉原中 3年

プロフィール

2年前の昭和56年、埼玉県加須市から富士市へ。埼玉には1年ちょっと。その前は静岡市と東京に。現在、元吉原中学校3年生。卓球部に籍を置くスポーツマン。両親と妹、弟の5人家族です。

宮川 製紙工場などの臭いをなくしてほしいです。それに、沼川がもっときれいになつたらいいと思います。昔は、この川で泳いだーなんて話を聞きました。友だち、たくさんできましたか

知らない間に大勢できました。ええ、部活や近所の友だちなど環境などについては

宮川 以前、田子の浦港のヘドロ公害について教科書で学びました。こちらに来てから田子の浦港を見たら、きれいになつているので驚きました。

宮川 ほしいです。それに、沼川がもっときれいになつたらいいと思います。昔は、この川で泳いだーなんて話を聞きました。

宮川 ええ、部活や近所の友だちなど